

心のふるさと新井田川の会

No. 23

発行 令和2年12月15日 発行者 原田清廣
事務局 酒田市北新橋2-1-18 電話0234-23-4254 伊藤則義

◆ ご支援・ご協力 ありがとうございます ◆

「心のふるさと新井田川の会」は、平成15年4月に結成され、17年目となりました。多くの方々からご協力・ご支援を頂き、活動を続けてきました。

次の方々に、ボランティア作業、会費・助成金、作業器材・花苗提供などご協力を頂いております。感謝申し上げます。

- ◇ 個人：各自治会の有志 (富士見町一丁目 / 富士見町二丁目 / 富士見町三丁目 / 北新橋一丁目 / 北新橋二丁目 / 新橋一丁目 / 新橋二丁目 / 新橋西 / 東栄町 / 若浜町東部 / 東中の口町 / 上安町 / 下安町 / 浜田親和会 / 八軒町 / 山王堂町 / 中の口共和会 / 片町 / 横道町亀寿会)
: その他個人 /
- ◇ (株)丸高 / (株)菅原工務所 / 前田製管(株) / 羽前建設(株) / 地神建設(株) / (株)巴組 / 山形県建設業協会酒田支部青年部 / 酒田湊観光企画(有) / コープ なかのくち / 酒田商工会議所女性会 /
- ◇ 光陵高校生徒 / 富士見小学校生徒・保護者 / 若浜小学校生徒 /
- ◇ 山形県(庄内総合支庁) / 酒田市 /
- ◇ 酒田市自治会連合会に加盟している各自治会 /

新井田川をきれいにしよう!! 汚れた水を流さない!! ゴミを捨てない!!

主要活動・・・美化活動と小学生の川の学習会

1. 美化活動

毎年の主要な活動は、新井田川周辺の環境美化活動である。草刈り、ごみ清掃、水質の浄化とそれらの啓発活動は、本会設立の喫緊の目的であった。それらの活動が軌道に乗ると、花壇管理を始めとする花いっぱい運動を展開してきた。

桜を守り育てる研修会の開催をとおして、桜並木の見回り手入れにも力を入れてきた。



2. 小学生の「川の学習会」

環境美化活動に加えて、小学生を対象とした「川の学習会」の活動を行っている。郷土愛を育み、河川愛護の心の涵養を願って取り組んでいる。

これまでの経過と内容をふりかえってみると、平成22年、若浜小学校の4年生が、学校近く

の堤防の花壇に、花を植えるお手伝いをする事になり、翌年平成23年から「川の学習会」も行うことになった。それ以来、花植えのお手伝いと「川の学習会」が続いている。平成25年に亀ヶ崎小学校が加わり、平成30年から富士見小学校でも行っている。

内容は、講話と水質調査実習である。
講話では、最上川について少し話をし、大部分は新井田川の全域の様子、歴史、治水改修工事、現状、住んでいる魚、水質などについてである。

水質調査実習では、試薬を使ったバックテストによって、pH(酸性かアルカリ性か)とCOD(水が汚れているか否か)の二種の検査をしている。

あと一つ、水の透明度を透視度計を使って、新井田川の水と水道水との比較検査をしている。

子どもは4名がサポートとして参加し指導に当たっている。富士見小学校では、この学習



のあと、新井田川本流の中流・上流を探訪する学習が行われ、要所要所で現地見学学習をしながら、スクールバスで上流・大平集落にある新井田川上流端の標柱のところまで行っている。



環境問題となっている海のゴミの7割以上が、川を流れて海に流れ出る陸のゴミだと言われている。河川愛護と古里を愛する心を育てたい。

各校でこれら学習をもとに、川の様子を見分し、関心あることをテーマとして、班別に調査・学習を深め、授業参観日に発表会を開いている。世界的な環境問題となっている海のゴミの7割以上が、川を流れて海に流れ出る陸のゴミだと言われている。

2. 「新井田川改修記念碑」・・・新井田川改修工事の概要

この低地帯一帯は、豪雨の度に漆曽根辺りまで田畑耕作地が冠水し、永年にわたって農民を苦しめてきた。新井田川の洪水は濁流が人家を押し流すと言うようなものでなく、田畑を冠水した水が何日も湛水したまま水が引かないという状態であった。農民の水害対策要求は切実な課題であった。

太平洋戦争が終結し、世の中も少し落ち着いて、漸く昭和24年(1949年)より、県営工事として新井田川治水改修工事が開始されることになった。

改修工事の概要を、舟止橋わきに建立されている記念碑の碑文でみてみよう。

*参考 ゆたか・泉町から駅裏、川から東一帯低地の海拔。

泉町(カローラ酒田泉店付近)約2m、東泉町六丁目公園約2.3m、旭公園約1.8m、
駅東公園約1.4m、上安南公園約2.4m、北新橋西公園約2m、北新橋二丁目公園約2.2m、
新橋公園(新橋二丁目)約2.1m、富士見町東公園約2.3m



新井田川改修記念碑

新井田川をきれいにしよう
汚れた水を流さない
ゴミを捨てない

ペットボトル・飲料缶・ビニール袋・
マスクのポイ捨てが 目につく

おめでとう 浅井勝太郎 さん

11月2日、酒田市から環境衛生功労者感謝状を授与されました。浅井さんは新橋二丁目在住で、長年地域の環境美化活動に貢献されてきました。本会の事務局スタッフとしても活動されております。

新井田川改修工事を記念碑でみる

今回は、改修工事に関する記念碑を紹介します。
先人の努力を学び、より良い町づくりを目指しましょう。

1. 新井田川の成り立ち

庄内平野の地形を外観すると、吹浦から加茂にかけての東側は大きく弧を描いて山地となっている。太古、庄内平野は山地に囲まれた入江となっていて海であった。長い年月の間に海底が隆起したり、海波と強い西風によって砂州が出来、潟湖を造り、最上川をはじめ大小の川が土砂を運んで徐々に浅くなり、やがて陸地化し西山の砂丘が出来たとされる。

最上川は古湊(古くは小湊)に流れていた時代があったとも言われ、宮野浦の十里塚が河口の時代もあった。やがて現在の河道と河口に落ち着いた。

荒瀬川・日向川は、西山の砂丘地に突き当たり、低地を南進して旧河口は小湊で海に注いでいた。

酒田市街地は、光ヶ丘の砂丘地から千日堂前、妙法寺、海晏寺、旧桶屋町、旧上の山と砂山の高台が続いている。その麓の豊里・泉地区から駅周辺、更に東側一帯は低地帯である。

新井田川は、東の山地から流れ出た矢流川や境川が合わさって西に流れ、市街地の高台の砂山に行き当たり、駅裏一帯の低地を湿地とし沼地を造り、やがて沼地がつながるなどして川となって南に流れるようになったものであろう。文明10年(1478年)白鬚の水の大洪水のとき、四ツ興野方面にあった東禅寺城の城基が削られ、城主の遊佐太郎繁元が現東高校の処に城を移築したとき、沼をつないで川にして天然の壕にしたという説がある。更に大永の頃(1521年頃)、遊佐氏を亡ぼした武藤氏が東禅寺城に東禅寺筑前守を入れ、新井田川を外濠として深く掘らせたとも言われる。

結局、駅裏を迂回して最上川に流れ込む河道となっていた。昭和7年(1932年)最上川と港を分離する工事が完成して、現在のようになった。

新井田川改修記念碑

新井田川は、その源を海抜三百七十八米の鷹尾山に發し、山間部を縫いながら、注ぐ。中流部を合流し、注ぐ。流域の八割は平地にあり、河幅が狭く、配水は困難である。雨の度に氾濫し、河床は高くなり、耕作地は減少し、民衆の生活に甚だしい被害を及ぼす。昭和七年(一九三二年)最上川と港を分離する工事が完成して、現在のようになった。

3. 「新井田川改修地造成記念碑」・・・河道の変更・旭新町の誕生

市街地区域で最大の工事は、クリーンセンターから駅裏を大きく迂回していた河道を、JR鉄橋に向かって直線に掘削し新たな河道を造る大工事であった。この構想は右岸沿いに県道を通して環状道路に接続し、旧河道を埋立て駅裏を住宅地に改造しようとする計画で、酒田市の都市計画の起点となる構想であった。その趣意は、旭新町自治会館前にある「新井田川改修地造成記念碑」にみる事が出来る。



昭和37年撮影:対角線が新河道、半円形が旧河道と旭新町 新井田川改修地造成記念碑

新井田川改修地造成記念碑

此ノ土地ハモト新井田川改修ニ伴ウ造成地ニシテ昭和二十四年県当局ハ新井田川ノ改修ヲ計画シ永年ニ渉ル農民ノ水害対策要望ニ応ントシタ恰モ当時酒田市ニ於テ此ノ機会ニ川ヲ鶴田橋村ヨリ酒田市ニ至ルマテ新タニ掘削シテ直線状ニシ県道ヲ之ニ添エテ環状道路ニ接続シ廢川敷地ト流域ハ東部市街地トシテ造成シ都市計画ノ起點トスル構想力起ツタ而シコレ當時ニ於テハ破天荒ノ事テ且ツ開ワル所多ク賛否相イ論セラレタカ当局ハ英断シテ県ニ乞ウテ此ヲ實施シタ然シ掘削該地耕作農民ノ拒否ハ生活ノカカル所ニシテ解決ハ困難ヲ極メ工事モタメニ頓挫セサルヲ得ナカッタ市当局ハ同二十七年主ナル關係農民カ上田村ニ属スル故ニ村長ニ協力ヲ懇請シ村当局ハ一ツニハ農民ノ権利擁護ト水害除去ノタメ一ツニハ酒田市百年ノ大計ノタメ協力ヲ約シ新井田川捷水路工事潰地処理委員會ヲ設ケテ事ニ当リ乃チ廢川敷地見返拂下特約等數ヶ条ヲ市及ヒ県当局ニ確約シ事漸ク調ウニ到ツタ爾來工事順調ニ進ミ昭和三十六年川及ヒ道路ハ所期ノ如ク完成シ廢川敷地見返拂下ノ件モ二十余年間ノ曲折ヲ經テ履行サレルニ到ツタ昭和四十七年拂下地受領者ハ造成協議會ヲ結成施工ヲ市ノ関連委託工事ト共ニ九高土建株式會社ニ発注ソノ技術ニ依ツテ克ク完成シタ今ヤ新井田川ノ昔日ノ水害ハタタ古老ノ物語トナリ造成地ハ新市街トシテ繁栄スルヲ親テ感ニ堪エス事ヲ叙シテ碑ヲ建テ酒田市ノ将来ヲ祝ス

昭和四十八年七月吉日
新井田川河川敷地造成協議會

4. 河道変更の課題 ……堆積土砂・未整備道路

* クリーンセンター前で直角に左折し南進する河道構想は、酒田市が堤防上に市内幹線道路の建設を目的としたものであると言われる。結果的に河水の自然の流れに沿わないもので、課題を残すことになった。
その場所はクリーンセンターの対岸、北新橋二丁目西公園付近であるが、土砂の堆積が止まない。平成15年、心のふるさと新井田川の会が結成されてから、堆積土砂の搬出が3回行われている。1回目は平成17年、この時は徹底した浚渫がなされた。搬出した土砂はクリーンセンター前、幸福川分流点の堤防空き地の土盛りに使用された。2回目は平成28年度末に不十分な予算範囲で、上土を浚う程度の浚渫となった。3回目は令和元年で、前回不十分だった浚渫に

土砂が積み重なって、水門の排出管口が埋まってしまうなどの事態となり、草が繁り、ゴミが溜まり、排水口が埋まるなどのため、浚渫をお願いしたものである。この回も一部は浅瀬のまま残った。
現在は中州のような状態になって、一部に背丈のある草が生い茂っている。



堆積土砂と繁茂した草

抜本的な解決は難しいと思われる。折々に堆積土砂を搬出する以外にないとしても、継続的な対策をお願いしたい。

* あと一つの課題は、右岸堤防上の道路である。発端は酒田市の市内幹線道路建設を目的とした都市計画であり、車輛の交通量も多い。
特に旭新橋から新橋交差点間は、未整備のままと言ってもいい。川ばたガードレールのギリギリを自転車南進する高校生は、大変危険である。



この幅を自転車を通る

新橋交差点は狭く、電柱がはみ出し北進する車輛からの見通しが悪く、交通の難所である。人家側も側溝蓋も古く境界もはっきりせず、徒歩、自転車にとっては悪路である。
もともとの堤防道路の一部、新橋交差点から百瀬鉄工場付近までは、河道変更工事前の古くから民家があったことも原因であろう。



見通しの悪い交差点

対策： 河道変更工事と堤防上が道路として建設されてから、60年も経過している。道幅が狭いことも原因であるが、何とか安全な道路として欲しい。
* 徒歩・自転車に優しい道路に整備する。①可能な限り道幅を広げる。川ばたガードレールの支柱まで30cmほどの草地も舗装し幅を広げる。②途中で途切れている旭新橋川側歩道を整備する。
* 新橋交差点を見通し良いように改善する。

5. 「豊川排水碑」……明治17年の工事

新井田川が最上川に流れ出ている時代、最上川の増水が新井田川に逆流することで新井田川が増水し、たびたび周辺に災害をもたらしていた。明治17年(1884年)、新井田川の湛水を支流の幸福川から小湊で、海に排水するための水路として豊川を開削した。これを記念する「豊川排水碑」が、明治44年9月に、豊川左岸の豊里皇大神社の境内に建立された。この記念碑は、その後、移設され、豊井堰改修記念碑(明治31年建立)、豊里耕地整理記念碑(大正12年建立)と並んで、旧酒田北高校グラウンドそばの豊井堰わきに、年月を経て古色蒼然として立っている。
下記の碑文は、酒田市史 史料編七、に記載されているものによった。



豊川排水碑

豊川排水碑
最上川の氾濫するや新井田川に漲溢し、逆流滔滔酒井新田・漆曾根等十八箇村の耕地を浸し、里民爲に夥多の損害を被ること年あり、嘉永中藩の補助を仰ぎ、山居谷地に四百餘間の堤塘を築き、之に備へしも數年の後○壞に屬せり、明治十二年逆水除水門を造設し、更に新井田川の湛水排除の爲同十七年に至り酒井新田豊里の他界に片側三間餘の野手代を置き、敷幅六間・上幅八間の巨溝を開鑿し、之を日向古川に利導し西海に朝宗せしむ、即ち豊川是なり、累年の水患斯に除き里民各堵を安んずるを得たり、而して、飽海郡耕地整理組合の計劃も此遺蹟を踏襲し、其効用を擴張するに外ならず、顧るに當初斯業を企劃し苦心慘愴之を経營せる主唱諸氏の功亦偉ならずや、茲に諸氏か、折田縣令に稟請せる文書に徴し其概略を勒し以て不朽に傳ふ。
明治四十四年九月
飽海郡長正六位勲五等 下 政恒 撰
内務技師從四位勲三等 近藤仙太郎 篆額

6. 「豊川改修記念碑」・・・新たな洪水対策

豊川は最上川の氾濫にともなう新井田川の湛水排除のため、明治17年に開削されたものである。日本海に流れる出る下流は、豊里あたりから旧日向川の古川跡を利用したのであるが、冬季の河口近くは風砂で埋もれ十分機能しなかった。新井田川本川の改修工事が進み、昭和45年から始まった北港の開発に合わせて、昭和48年から大改修工事が行われた。洪水対策として、新井田川本流の一部を常時分流して、幸福川・豊川を通して北港に流れ出るようにした。工事中に河口付近で砂に埋もれた当時の橋が、掘り起こされた。

平成2年3月に竣功した。総事業費50億4300万円であった。記念碑は、豊川左岸、皇大神社前、豊橋脇に設置されてある。



豊川改修記念碑

豊川改修記念碑

明治十七年豊里酒井新田の地境を開鑿し日向川古川を経て古湊の北西より海に流出させ新井田川水系の湛水排除に功を奏した 中十数米美しい曲線を見せて蛇行した豊川であったが自然の猛威には抗し難く海岸近くに導水トンネルを築造したがその前後の水路は一風毎に埋もれ新井田川・豊川に排水を委ねる村落の耕作者は大拵して飛砂を除去し水路の確保に勉めたが明春には亦砂山となる それを知り乍ら農魂逞しく春期頃毎年川尻掘りと称してその作業が繰返された 豊川改修については故国務大臣池田正之輔故山形県議会議長前田巖の両先生を始めとし地元選出の国・県市の各議員諸先生の御尽力と各機関の御理解により私ども地域農民の切なる請願が受理され昭和四十八年より巨額の公費を投じ土木技術の粋を以って十数年の歳月をかけ酒田北港を河口として大改修工事が完成した 依て漸く水害も除却され降雨時には再三冠水により丹精こめた稲田が湖沼と化した中での堤防補修や徹夜の警備も語り草となり茲に地域農民が謝意を籠めて生まれ変わった河畔の此の地に久遠の治水を願いこの碑建立した

事業主体 山形県 延長 二千七百米

総事業費 五十億四千三百万円 幅員 四十四米

竣功 平成二年嘉月 水深 四米

施工業者 鹿島建設株式会社

株式会社平尾工務店 東亜建設工業株式会社

前田製管株式会社 大場建設株式会社

平成二年三月吉日

豊川改修促進期成同盟会建立



4基の記念碑は、先人の努力とご苦勞を顕彰しています。新井田川下流・市街地流域は、昔の牧歌的な風景は一変しましたが、永年の懸案であった治水環境は改善されました。

新井田川が、河川公園のような環境になり、心のふるさととして、市民に受け継がれていくように、先人の業績を学び官民協働して、新しい川文化の創造による町づくりが出来れば、素晴らしいことだと思います。